

県内内水面漁業・養殖業における主な魚病

水産食品部 研究専門員 立石章治

【魚病検査について】

【魚病検査する目的】

- ・本県では、ウナギ養殖を中心に内水面養殖が盛ん。
- ・養殖場での病気の発生は、養殖業者に多大な経営被害を及ぼす。
- ・被害・まん延を防ぐために、魚病診断によって原因を明らかにし、対策を講じることが重要。

【検査内容】

- 外部症状、内部症状確認→(体表、出血、内臓の異常)
- 細菌検査、薬剤感受性確認→(有効な薬剤の確認)
- PCR検査→(細菌感染症やウイルス病の確認)

【診断件数】

・本センターでは、魚病に関する各種の検査等を実施し、魚病被害・まん延防止に努めています。

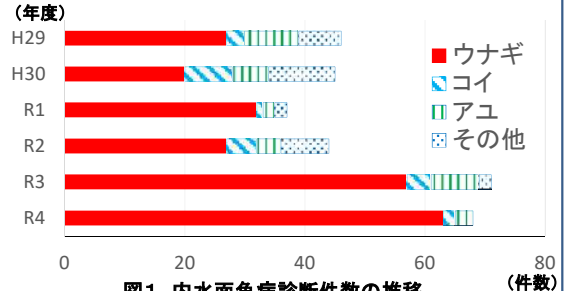


図1 内水面魚病診断件数の推移 (R4年度は1月末現在)

【主な魚種と病気】

【ウナギ】

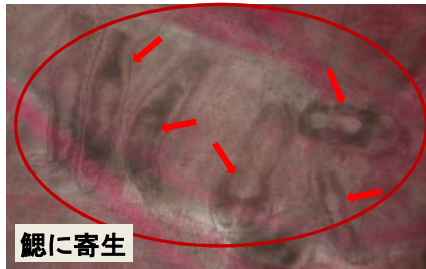
ウナギ魚病検査では、パラコロ病とシュードダクチロギルス症が大部分を占めている。

パラコロ病



診断状況: 本年度33件(R5.1現在)
原因: *Edwardsiella tarda*(エドワジエラ・タルダ)の感染
使用薬剤: オキシリン酸, フロルフェニコール, 塩酸オキシテトラサイクリン, スルファモノトキシン及びオルメプリム配合剤

シュードダクチロギルス症



診断状況: 本年度23件(R5.1現在)
原因: *Pseudodactylogyrus*
(シュードダクチロギルス)の鰭への寄生
対策: 昇温飼育, 収容密度を減少させる。
使用できる薬剤はない。

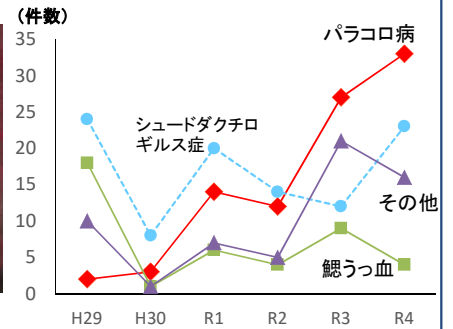


図2 ウナギ疾病別延べ診断件数の推移 (R4年度は1月末現在)

【アユ】

冷水病, エドワジエラ・イクタルリ感染症については, 国の防疫指針により注意すべき疾病として, まん延防止が求められている。

冷水病

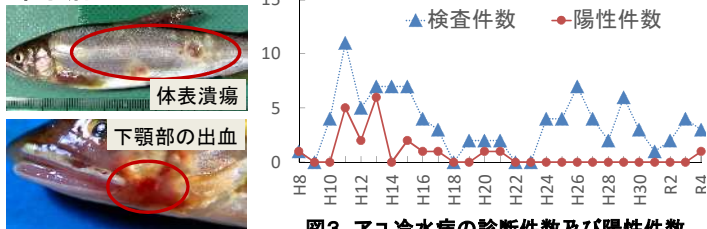


図3 アユ冷水病の診断件数及び陽性件数の推移 (R4年度は1月末現在)

提供元 山梨県水産技術センター
診断状況: 放流前検査1回実施。
H8年に初めて確認。近年はR4年に発生。
原因: 細菌 *Flavobacterium psychrophilum* (フラボバクテリウム・サイクロフィルム) の感染
使用薬剤: フロルフェニコール, スルフィソゾールナトリウム

エドワジエラ・イクタルリ感染症

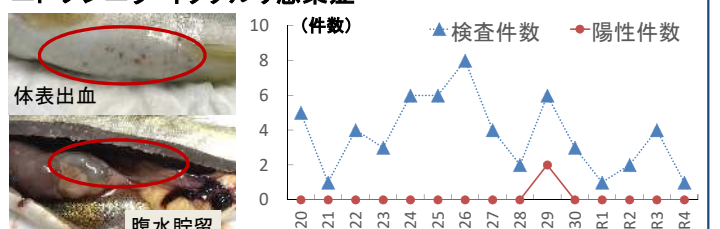


図4 アユのエドワジエラ・イクタルリ感染症診断件数及び陽性件数の推移 (R4年度は1月末現在)

提供元 大分県農林水産研究指導センター
診断状況: 放流前検査1回実施。
H29年に初めて保菌個体を確認。その後確認なし。
原因: 細菌 *Edwardsiella ictaluri* (エドワジエラ・イクタルリ) の感染
使用薬剤: フロルフェニコール

【コイ】

コイヘルペスウイルス(KHV)病

平成15年に国内で初めて発生確認された。持続的養殖生産確保法の特定疾病であり, 移動制限等の対象となっている。



診断状況: 本年度は, 3件検査し, 全て陰性
原因: コイヘルペスウイルスの感染
対策: 有効な治療法はない。



図5 KHV病の診断件数及び陽性件数の推移 (R4年度は1月末現在)

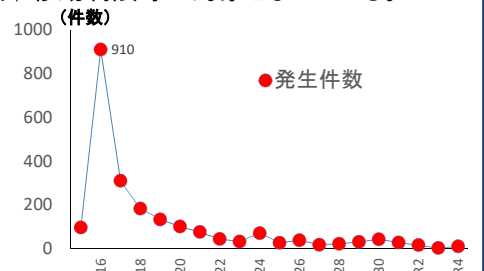


図6 全国のKHV発生件数の推移 (R4年度は1月末現在 データ元: 農林水産省HP)